

鶴田町議会 常任委員会 総務経済・教育民生 合同視察研修報告

視察先 山形県村山地域、宮城県仙台市
日程 令和6年7月29日(月)～31日(水)
参加者 (総務経済) 澁谷正行、長内勝靖、北谷正則、小関優、
(教育民生) 瀬戸弘之、加賀谷忠榮、佐藤剛

今回の研修は、東北地方で特色のある道の駅の現状と廃校の活用などについて学ぶため、山形県村山地域の「道の駅」と村山市の旧高校跡地の有効活用事例を視察してきました。

【道の駅視察】

最初の視察地は、道の駅「天童温泉」。ここは温泉と将棋の町であり、その特色を前面に打ち出した形の施設でした。



△道の駅天童温泉にある将棋駒の形をしたベンチ

天童温泉を観光の中心に据え、将棋駒の製作実演を案内所の中心に置き、物産館はお土産コーナーが主力と見えました。産直販売は会員の産物を展開するというより、道の駅本体が仕入れて提供する方式で、値段的にも割安感を感じられませんでした。

しかし、お土産売り場は商品も非常に多く、充実感があり、全国に名を馳せたる「天童温泉」と感じました。

また、この施設は複合施設として、メガネ屋やこんにゃく屋、書店などをテナントとして配置しており、施設裏には野外ステージに加え大規模イベントも開催可能な会場を備えるほか、将棋駒の形をした「足湯」でおもてなしを演出していました。

道の駅視察2か所目は、「道の駅むらやま」を視察。まず驚いたのは、第1・第2の駐車場

を繋ぐために国道を跨ぐ空中トネルの姿です。道の駅は、農産物直売所の会員登録が100名ほどのことで、地場産品コーナーやお土産売り場、レストランやフードコートがコンパクトにまとまった施設であると感じました。

道の駅視察3か所目は、寒河江市にある「チェリーランドさがえ」という大規模な道の駅「寒河江」です。広大な敷地に物産販売所・お土産品売り場・情報館のほか、別棟でトルコ館があります。

特に目を引いたのは、タッチ画面での地元の特産物や祭り、観光地などを紹介したシステムです。当町でも観光案内所かレストランコーナーに整備が必要と感じました。

そして、一番驚いたのが、4月にオープンしたばかりの「CLAPIN SAGAE」という乳幼



△チェリーランドさがえのお土産センター

児から中学生までを対象に、体を動かして遊びことができる施設です。広さ2千平方メートルに遊具や音楽スペースが設置されていて、屋外にもキャンプ場、グランピング場、車中泊ができるRVパークが併設されています。子育て支援の施策展開にはぜひとも一度視察するべきでしょう。

農産物直売所は、別棟の一角所だけで、当町のような広い直売所は他県にも誇れる施設であり、産直友の会の会員増強に議会としても応援していきたいと考えています。

【廃校活用施設視察】

今回の視察で中心となるのが「学校施設」の活用です。

JR村山駅から近く市内の中心部に位置する「旧県立楯岡高校跡地」を有効活用した「Link

MURAYAMA」という施設です。

市では楯岡高校閉校後、跡地の再利用を考え、利活用検討市民会議の設置、その後に利活用ワーキングチームを設置して、楯岡高校跡地利活用基本構想を策定し、県からの有償譲渡、改修工事を経て、令和4年にオープンに至ったそうです。

施設のテーマは「にぎわい、にぎわい」。

「にぎわい」を生む工夫として、

①リビング・コワーキングスペース、屋内広場・体育館をオープン化し、極力「禁止」というルールを設けないこと。

②利用者相互に配慮しあいながら施設全体をシェアして使うこと。

③市民イベントなど、公益的な活動をしている団体に対しては施設使用料を免除すること。

「なりわい」を生む工夫として、

①小分けの入居スペース・共用の会議室などを設置すること。

②「営利だからダメ」にせず、一般と同条件(使用料等)で利用を許可すること。

③官民連携による公益的事業の拠点として使用すること。



△「Link MURAYAMA」にて施設の説明を受ける委員

くりを推進するフィットネスジム、コインランドリー、地場産品のネット販売会社など20社となっています。

入居者のうちの1社である、ふるさと納税サポート会社については、村山市も業務委託をしています。平成30年度の寄付額が4億円に落ち込んでいたのが、令和4年度は22億円と、5倍以上の実績が上がっていることに驚きです。

当町の旧水元中央小学校も地域活性化センターとして再利用され、官民同居の公共施設となります。

今後の当町の施設運営に当たっては、1つ目として施設利活用（利活用希望者）で施設のあり方・使い方を議論すること。

2つ目は、公共スペースの存

在が、民間業者のメリットにつながるように計画すること。

3つ目として、政策目的や利活用者の声から施設の設置目的を明文化し、そこから管理運営ルール（法令・運用等）を定めることが必要と考えます。

最後に「どうしたら問題が起きないか」だけでなく「どう使ったら活性化するか」という視点をもち、町の活性化につながる施設となるよう期待するところです。

【震災遺構視察】

最後は、東日本大震災の震災遺構として保存されている仙台市立荒浜小学校の視察でした。

荒浜地区は、仙台中心部から東に約10km離れた太平洋沿岸部に位置しています。震災前は、約800世帯、約2200人の

方々が暮らしていたそうですが、現在では更地となり、中央には避難用の高台整備が行われていました。

小学校は海岸から約700メートル離れた場所にありましたが、地表から約5メートルの津波が到達したそう

で、校舎の2階ペランダには赤いラインで到達した高さを示していました。



△震災遺構荒浜小学校内「明日への備え」展示コーナー

教職員、地域の方々を含め約320名が、小学校に避難し、全員無事に救助されたそうです。

校舎2階までは、津波の到達跡の姿を保存、3・4階は荒浜地区の記憶映像を上映するコーナー、災害時の明日への備え、過去の歴史を紐解き、油断せず、常に備えていることの重要性を非常用具やパネルで紹介するコーナーなど、在りし日の荒浜の様子など展示されていました。

私たちの視察時には、中学生の団体やたくさんの方々が見学に訪れており、改めて災害時の対応や常日頃からの災害訓練や当町の自主防災組織の必要性を感じたところです。以上、研修報告といたします。

つるたまち議会活動報告

VOL.7（文責：議会運営委員会委員長 小関優）

当委員会は、開かれた議会を目指し、定例会開催予定日の早期公表やインターネットの活用について協議を重ねました。町議会では、定例会（3・6・9・12月開催）をより多くの方に傍聴していただけるように、次の12月定例会から、町ホームページ（約1ヶ月前）や広報つるた（前月発行号）にて、開催予定日を早期公表することとしました。

また、お仕事などで時間の都合がつけられない方のために、インターネットを活用した定例会のアーカイブ配信等も出るように今後も協議して参ります。

なお、議会における議員の服装については、県議会や町役場においてノーネクタイ勤務が通年実施されたため、議員もそれに準ずることとしましたので、町民の皆様のご理解をいただきたく存じます。

【有料広告】

60歳からの
助だち人生

お仕事の一例や
会員さんの声は
こちら



シニア世代の皆様へ
“ちょこっと仕事”で
もっと健康! もっと笑顔!!
鶴田町シルバー人材センター

鶴田町大字鶴田字沖津193
保健福祉センター鶴遊館内

☎0173-22-3394